

牧師室から (2023.1.29)

この数日間はとても寒かった。寒波のせいで久々に千葉の実家でも外の蛇口が凍った。首都圏でも雪が降るか、降らないかで騒いでいる。母は雪を見るメグの反応が楽しみのように「メグは雪を見て喜ぶだろうか」と何度も言っている。

聖書の中には時折雪が出て来るが、その多くは比喻である。だから私はイスラエルは温暖から亜熱帯なので大方雪は降らず、ヘルモン山の頂の白いものを見たり或いは奇特な者が山頂近くまで登って雪を知ったのかと思っていた。

ところが私どもの牧師館のダイニングには、毎年友人から贈られるイスラエル暦のカレンダーが掛かっているが、それには月ごとに写真がついていて、今年の1月のものにはエルサレムに雪が降って白くなっている風景がある。その写真の下の方に短い解説があって、エルサレムではめったに雪は降らないが、たまに降ることがあるということである。そういえば少し前のことだが、沖縄でも雪が少し降ったという報道があったのを思い起こした。

また写真の上の方には詩編のみ言葉が記されている。「主は羊毛のように雪を降らせ灰のように霜をまかれる」(詩編 147:16)。イスラエル(イスラエルも南北に縦長だが、特にエルサレムあたりでも)では雪は降るのだということを改めて知った。

母が昔よく歌っていた 1954 年版讃美歌の 521 番を思い出した。讃美歌 21 ではなくなっている。「イエスよ、心に宿りて われを宮となしたまえ、けがれにそみしこの身を 雪より白くしたまえ。 わがつみをあらいて 雪より白くしたまえ。」(1 節)

(鈴木淳一牧師)